

# 「吉崎海岸の植物たち」

2018年5月6日

四日市市自然保護推進委員会 赤嶺 和彦

吉崎海岸には、貴重な海浜植物が沢山生育しています。近年、日本の海岸は、都市化や開発に伴って海岸線の人工化が進み、海浜植物の残る自然海岸が急速に減少しています。四日市市でも自然海岸は、この吉崎海岸と少し南に位置する鈴鹿川派川河口部に見られる海岸の2カ所を残すだけとなっています。貴重な自然海岸を皆さんの手で残していきたいものです。



砂浜一面をおおうハマヒルガオ 2014.5.18

## ○きびしい砂浜の環境

砂浜の環境は、植物にとって一般の陸地に比べて大変厳しいものがあります。極端に乏しい養分、濃い塩分と保水力の乏しさ、夏は強い日光と焼けつくような砂、冬は強い北風、絶えず移動する表面の砂等どれ一つをとっても一般の植物が耐えられる環境ではありません。こんな厳しい環境で、工夫をこらして適応し人間よりもずっと大昔から生きぬいてきているのが海浜植物なのです。

## ○海浜植物の特徴は？

- ①葉は貯水組織が発達していて**ポツテリと厚み**があります。→**保水力をアップ**
- ②葉の表面には、光沢があります。これは、葉の表面をおおう**クチクラ層**によるものでこの層によって強烈な日光をはねかえし水分の蒸発を抑えています。→**葉につや**があります。
- ③茎は、ほとんど砂の中にあって所どころから地表に葉を出しています。→**地下茎に注目**。
- ④浸透圧が高くなっています。海岸では塩分濃度が高いので一般の植物の10倍近くの気圧に耐えられることが必要です。→**葉をかじるとしょっぱい**。

## ○この時期の代表的な海浜植物の紹介

### コウボウムギ カヤツリグサ科

大型のスゲ類で、弘法大師のコウボウが名前の由来。筆草の別名もある。根の周りの古い葉鞘の繊維が筆先のように見える所から筆の名人弘法大師の名がついたとされる。海岸砂浜にはえる多年草。雌雄異株で、根茎は、長く砂中に横たわり木質で分かれて広がる。茎は、切り口が三角形で、葉は、丈夫で切れにくい。飛んできた砂を受け止め砂丘を形成していき働きがある。麦というが、食用にはならない。花は、4月初旬～中旬が見頃。雄の花穂は、長卵形で黄色の葯を多くつける。雌の花穂は、長さ6cm内外で花の時期には白い柱頭がよく目立つ。



コウボウムギの雌株



コウボウムギの雄株



コウボウムギの雌花穂 白いのが柱頭



コウボウムギの雄花穂 やくが目立つ



コウボウムギの根の部分



根の周りの古い葉鞘の繊維 筆先に似る。



## ハマエンドウ マメ科

海浜の砂地にはえる多年草。長く地下茎を伸ばして繁殖する。茎は地面を横にはい上部が斜上する。全体に白っぽい緑色で無毛。カラスノエンドウやスズメノエンドウに比べ花や実が大きく托葉も大きい。葉の先の巻きひげが短いのも特徴。4月から5月初旬にきれいに咲く。



ハマエンドウの花



ハマエンドウの果実

## ハマヒルガオ ヒルガオ科

海岸の砂地にはえる多年草。白く強い地下茎を砂の中に長く伸ばし、茎は砂の上に横たわる。葉は長い柄がありほぼ円形で光沢がある。花は、淡紅色で花の底に黄色く染まったくぼみが5つ見える。これは、蜜をためるつぼで、小さな虫がなめにやってくる。5月のはじめから咲き始め、5月中頃が一番美しい。



ハマヒルガオの花  
テントウ虫が止まっている。



砂の中に白い地下茎を縦横無尽に伸ばしている。

**ハマニガナ**      キク科      **準絶滅危惧種**

海岸の砂地にはえる多年草。砂中に長い地下茎を伸ばし、葉と花茎を外に出す。葉は厚く、互生して長い柄を持ち3裂する。葉の形からハマイチョウとも呼ばれる。花の数は少なく見つけにくい、花の咲く時期は長い。オオジシバリの花によく似る。よくさがしてみると、あちらこちらに群落を見つけることができる。



ハマニガナの花



ハマニガナの群落



ハマニガナの地下茎の様子 2017.1. 28

ハマニガナは、ハマヒルガオと同じく砂の中に白い地下茎を伸ばし成長していく。近年減少が著しく、準絶滅危惧種に指定されているが、この吉崎海岸では、外来植物駆除活動の成果もあってか、群落が大きく広がっている。活動を始めたころは、わずかしか見られなかったが、南に位置するエリアでは、大きな群落が形成されている。



## ハマボウフウ セリ科

多年草で、根は、深く地中に垂直に伸びる。葉は、砂上に展開し厚く光沢がある。ボウフウは、「防風」と書き中国原産の薬草の代わりに使うことからついたといわれる。若芽を食用とし、又刺身のつまに用いる。砂浜に点在し白い花を咲かせる。キアゲハの食草。



ハマボウフウの花



ハマボウフウの根

地下深く垂直に伸びる。

## ツルナ（ハマヂシャ） ハマミズナ科

海岸に自生する多肉性の多年草。体全体が白い粉におおわれているように見える。葉腋に1～2個の黄色い花を開く。時に畑に栽培され食用とされる。茎はつる状で、菜として食べられる所からその名前がついている。



ツルナの広がった株



ツルナの黄色い花

# 海浜植物を守るための外来植物駆除活動のポイント

**外来生物とは？** 人間の活動によって本来の生息場所から別の場所に持ち込まれ、その場所にすみつくようになった生物。

**特定外来生物とは？** 外来生物のうち、移入先の生態系に深刻な影響をあたえるものを**特定外来生物**に指定し、**外来生物法**（2005年6月施行）によって規制の対象としています。**特定外来生物**では、生きた個体以外に卵や種子、器官なども規制の対象とされ、飼育や栽培、保管、運搬などが原則として禁止されています。

例 動物 アライグマ、ヌートリア、ウシガエル、オオクチバス、ブルーギル、セアカゴケグモ、アルゼンチンアリ、ヒアリ、カミツキガメなど

植物 オオキンケイギク、アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、ボタンウキクサ、ブラジルチドメグサなど

## 侵略的外来生物による被害を予防するための3原則

- ①入れない 悪影響を及ぼすかもしれない外来植物をむやみに日本に入れない
- ②捨てない 飼っている外来生物を野外に捨てない、逃がさない。
- ③拡げない 野外にすでにいる外来生物は、他地域に拡げない。

## 吉崎海岸での外来植物駆除活動について

### ①実態をつかむための正確な調査

青山先生の調査によると、吉崎海岸に生育する植物は、88種類。その中で、在来種は48種・外来種は40種となっています。（2012年4月資料による）

外来植物の中では、**特定外来植物**のアレチウリが確認されており、**要注意外来植物**としてアメリカネナシカズラ、イタチハギ、オオアレチノギク、オオオナモミ、コセンダングサ、コマツヨイグサ、シナダレスズメガヤ、セイタカアワダチソウ、ハルジオン、ヒメジョオン、ホソムギ、メマツヨイグサ等があげられています。

### ②この間の駆除活動の成果

駆除活動に取り組む中で、大幅に減少もしくは、消滅した外来植物

アレチウリ、オオオナモミ、イタチハギ、コセンダングサ、アツバキミガヨラン、シナダレスズメガヤ、セイタカアワダチソウ、ナガミヒナゲシなどがあります。

○在来種の中にもメヒシバのように、繁殖力が旺盛で海浜植物の生長を阻害するものもあり、除草対象としています。

### ③優先順位を決めて取り組む 迷惑度 別紙参照

No. 1 コマツヨイグサ、No.2 アメリカネナシカズラ・・・・・・・・。

### ④1年生草本か2年生草本か多年生草本かを見極めて除草する。

◎1年生草本 1年でタネから芽が出て、花や実をつけて枯れてしまうもの。

例 アメリカネナシカズラ、オオオナモミ、コセンダングサなど

根も含め全て枯れ種子の形で冬を越すので、種子を残さないようにするのが根絶のポイントになる。花が咲いて種子が出来る前に除草を行うことが重要。ただ花を咲かせ種子をつくる時期が暑い時期と重なるものが多く暑い中での作業となるので、どうしても枯れてからの除草になってしまうことが多い。

◎2年生草本 1年目に成長して2年～数年目で花や実をつけて枯れてしまうもの。

例 コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、ピロードモウズイカ、ホソムギなど

春から初夏にかけて、ロゼットの状態や草丈が低いうちに除草するのが効果的。

◎多年生草本

例 シナダレスズメガヤ、セイタカアワダチソウなど

地下部が2年以上生存して、2回以上毎年花や実をつけるもの

地表部を取り除くだけでは、駆除したことにはならない。地表下に伸びる根茎を含めてごっそりと取り除くことが重要。

### ⑤他の動物のことも考えて活動する必要性

海岸の保全を考えると、植物のことだけを考えると除草作業をすることはできません。

産卵にやって来るアカウミガメ、産卵・営巣する野鳥など、どれもが大切な吉崎海岸の生物であることに留意して、それぞれの専門家の助言を参考に作業をすすめる必要があります。

## なぜ除草するの？

海岸植物は、潮風に含まれる塩分の影響や強い日射などを受ける厳しい環境に生育しています。吉崎海岸の砂浜も、土壤に栄養がなく高温にさらされる過酷な環境です。

そんな場所に生育している海岸植物は、たいそう強そうに見えますが、実はそうでもありません。普通の環境では競争に負けて生育出来ないような仲間が他の植物が敬遠するような場所を選んで適応しているという見方も出来るのです。ですから、海岸独特の自然環境が失われてしまうと他の植物が入り込んで海岸植物は、競争に負けて減ってしまうこととなります。そこで、海岸植物が外来植物などに負けてしまわないように手助けが必要なのです。